



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

平成29年7月 マンスリー レポート

集計企業数 **55** 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	57,173,286 万円	100.0%	101.5% (101.0%)	55,241,455 万円	100.0% (99.3%)
食 料 品	48,076,940 万円	84.1% (84.5%)	101.6% (101.3%)	46,674,002 万円	100.2% (99.7%)
農 産	6,783,496 万円	11.9% (12.6%)	98.1% (98.2%)	6,576,698 万円	96.7% (96.7%)
水 産	4,506,334 万円	7.9% (7.6%)	97.8% (97.4%)	4,361,506 万円	96.2% (95.6%)
畜 産	5,812,570 万円	10.2% (10.6%)	104.0% (104.7%)	5,619,015 万円	102.0% (102.6%)
惣 菜	5,676,281 万円	9.9% (9.6%)	103.0% (103.0%)	5,484,111 万円	101.1% (100.9%)
日配食品	10,986,350 万円	19.2% (19.3%)	102.3% (101.3%)	10,661,930 万円	100.9% (99.8%)
加工食品	14,311,909 万円	25.0% (24.8%)	102.3% (102.1%)	13,970,743 万円	101.5% (100.7%)
生活関連	3,835,855 万円	6.7% (6.6%)	100.7% (98.9%)	3,758,987 万円	100.2% (98.3%)
衣 料 品	1,809,679 万円	3.2% (3.2%)	100.1% (94.9%)	1,738,303 万円	98.7% (93.9%)
そ の 他	3,450,812 万円	6.0% (5.7%)	103.0% (103.2%)	3,070,163 万円	97.4% (97.7%)

② 数 値

全店総売上高	57,173,286 万円	店 舗 数	4,619 店舗
総売場面積	9,208,406.5 m ²	総従業員数	247,086 人

店舗平均月商	12,377.8 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,865.6 円 (100.0%)
月間m ² 売上(前月)	6.2 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	1,993.6 m ²
月間坪売上(前月)	20.5 万円 (19.7 万円)	パート比率(前月)	77.7% (77.8%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 7月の天候環境について、平均気温は全国的に高く、北・西日本でかなり高かった。降水量は東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側が多かった。一方、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では少なかった。日照時間は北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側と東日本太平洋側が多かった
- ・ 梅雨明けは、九州南部が7月13日、九州北部から関東甲信が7月19日ごろと、ほぼ平年並みだった
- ・ 生鮮品の相場状況は、農産物では野菜全体の安値傾向が続く一方、果実は「もも」や「メロン」、「すいか」を中心に相場が高かった。畜産物では、国産の豚肉と鶏むね肉の高値傾向が続いている
- ・ 前年と比べ、月曜日が1日多く、金曜日が1日少ない曜日廻りだった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は「トマト」が全体的に好調だった一方、「きゅうり」「なす」や「とうもろこし」は好不調が分かれた
- ・ 野菜全体が相場安のため不調であった。特に「キャベツ」「レタス」などの大型野菜や、「じゃがいも」「たまねぎ」「にんじん」などの土物・根菜、「ブロッコリー」が販売価格の低下により、売上の減少が見られた
- ・ 果実では「すいか」「もも」が好調なコメントが多く、「メロン」や「バナナ」「キウイ」は不調とのコメントが多かった
- ・ 「カットサラダ」や「カットフルーツ」といった加工品は、引き続き簡便ニーズの高まりにより好調であった

○ 水産

- ・ アニサキス報道の影響が長引き、「刺身」を中心に生食全般が不調であった
- ・ 「うなぎ」は前年より1割ほど安く、国産を中心に好調であった
- ・ 「するめいか」は不漁による売上不振が続いている

○ 畜産

- ・ 牛肉が好調、「ステーキ」や「焼肉」用途としての輸入牛の動向が良かった
- ・ 豚肉は気温の要因により、「冷しゃぶ」用途が好調であった
- ・ 国産の豚肉は相場が高く、輸入を販売強化する企業が多かった

○ 惣菜

- ・ 気温の要因により、冷やし中華やざるそばなどの「涼味麺」が好調であった
- ・ 大手コンビニが強化している「やきとり」は、食品スーパーにおいても堅調であった
- ・ 家庭で火や油を使わずにすむ「天ぷら」「から揚げ」が好調であった

○ 日配・加工食品

- ・ 気温の要因により「アイス」「飲料」が好調だった一方、「菓子パン」や「和菓子」「スナック菓子」は不調であった
- ・ 「缶チューハイ」が好調、酒税法改正により値上げの「ビール」はやや不調であった
- ・ めんつゆなどの「和風調味料」は好調だったが、「乾麺」は好不調が分かれた
- ・ 「冷凍食品」や「スープ」、「レトルトカレー」などのインスタント食品が好調であった
- ・ 昨年伸長した反動により「梅干し」や「ヨーグルト」は不調であった

○ 土用の丑の動向について

- ・ 予約販売では「当日販売価格よりお買い得」や「ポイント付与」の取り組みが見られた
- ・ 「土用の丑」当日が去年は土曜日だったのに対し今年火曜日だったため、予約件数は下回るコメントが多かった
- ・ 「土用の丑」の直前週末から売込みをかけ、実績は好調だったとのコメントが見られた
- ・ 当日販売においては昨年より価格が下がったため概ね好調、うち国産比率は7～8割と高かった
- ・ 惣菜で販売の「うな重」が好調とのコメントが多かった

○ サマーギフトの動向について

- ・ 商品動向においては、生鮮ギフトの動向が良く、非生鮮ギフトの動向はやや鈍かった。
- ・ 酒（ビール）ギフトが不調とのコメントが多かった
- ・ 中元ギフト全体の売上は、低調とのコメントが多かった

以 上